

「SCOT (Suzuki Company of Toga) の演劇とその背景 : 富山の文化と自然を学ぶ」

担当教員名 平野井 ちえ子

コース概要

日程	2018 年 8 月 23 日～26 日
場所	富山県南砺市・砺波市・富山市
参加人数	11 名

コースのねらい

利賀(南砺市)は、芸術創造による真の国際交流の場として、世界の演劇人から「演劇のメッカ」と称されています。本 F S では、観劇だけでなく、利賀とその近隣の文化と自然を学び、演劇と場の関わりについて考えます。

内容

タイトルにあるとおり、本 F S の中心テーマは、SCOT の芸術創造の場を探訪し、その作品世界により一層の理解を深めることです。そのためには、ぜひとも五箇山に現存する合掌造りの集落を見学し、豪雪地帯の自然・文化・歴史についても学べる旅にすべきであると考えました。2015 年 3 月に北陸新幹線が開業し、東京から北陸各地へのアクセスが便利になりましたが、富山市内から利賀芸術公園までの道のりは、旅慣れない学生の個人旅行としては少々ハードルが高そうです。そのような旅こそ大学の授業として後押ししたいという思いも、本 F S 企画の追い風となりました。さらに、富山市内に宿泊することを生かして、全国的に有名な「おわら風の盆」や砺波の散居村も探訪したいと、夢はどんどん膨らんで、最終的に以下の行程が確定しました。

- 1 日目： J R 富山駅集合、富山県自然博物館ねいの里を見学、おわら風の盆前夜祭ステージ・町流しを鑑賞。
- 2 日目： 相倉・菅沼の合掌集落をはじめとする五箇山を訪問。夕陽の砺波散居村を展望。
- 3 日目： SCOT サマーシーズンの 2 演目を観劇。
(旧体育館を劇場に改造した「利賀大山房」、池や山など利賀の大自然を背景に盛大な花火の美しい「野外劇場」などでの観劇です。)
- 4 日目： 富山市および近隣地域でのグループ別学習、夕方現地解散。

SCOT サマーシーズンでは、インドネシアとの共同制作『ディオニュソス』(利賀大山房)とサマーシーズン恒例の『世界の果てからこんにちは』(野外劇場)という 2 つの鈴木忠志演出作品を観劇しました。利賀大山房の『ディオニュソス』は、役者がそれぞれの母語で台詞を話す SCOT ならではの作品でした。スズキ・トレーニング・メソッドで培われた身体性は、言語の違いを超越して、観る者の感性に訴えかけます。『世界の果てからこんにちは』は、鈴木作品のコラージュのようなサービス精神溢れる作品で、古代ギリシャの劇場に原型を求めた本格的野外劇場で上演されました。池や山を借景に大がかりな照明や花火で盛り上がる舞台は、まさに至福の極みでした。

演出家鈴木忠志氏は、1976 年に、東京から利賀村へ活動の拠点を移しました。その理由は 3 つあります。第 1 に、時間的制約のない稽古場と公演のために自由にアレンジできる空間の確保を望んだということ。第 2 に、既存の劇場ではない新しい空間、とくに生活の痕跡が残る空間を劇場にしたかったこと。第 3 に、東京の日常から切れたところで演劇をやりたかったということ。F S 参加者は、現地に足を運んでみて、鈴木氏の劇場についての考えが実感できたと思います。

学習を終えて

五箇山をご案内下さった南砺市文化・世界遺産課此尾治和課長から次のメッセージをいただきました。

南砺市「五箇山」には、45年前に国の史跡指定を受けた懐かしい原風景が豊かに息づく、相倉集落と菅沼集落の2カ所の合掌造り集落があります。他に類を見ない合掌造りの建築様式と景観に加え、これを守るために受け継がれてきた「暮らし」が高く評価され、平成7年12月に白川郷とともに世界遺産に登録されて20周年という大きな節目を迎えました。世界中から注目を浴びる合掌造り集落は、その地域に住む人々だけでなく、市民一体となった保存継承活動が重要であり、「南砺の宝、日本の宝」を誇りにして後世に引き継いでいかななくてはならないと考えております。

法政大学の皆様には、合掌造り集落などの歴史ある伝統文化と SCOT 演劇などの創造的な文化が融合する「文化芸術創造都市・南砺」のファンになっていただき、今後も再訪されて調査研究いただくことを願ってやみません。

FS 富山に参加した福原百香さんの感想です。

富山は何度も訪れたことがありますが、今回のFSに参加して多くの発見や学びがありました。合掌造り集落など有形の文化遺産だけでなく、こきりこ節などの民謡やおわら風の盆のような地域を代表するお祭りが確実に受け継がれていることに感心しました。南砺市に文化・世界遺産課が設置されていることは、地域の文化を継承することへの大いなる意気込みだと思います。ねいの里自然博物館では富山の自然について体験的に学ぶことができましたし、散居村ミュージアムでは地形を生かした農業のあり方や自然と闘う家屋の構造などについてお話を伺いました。こうした富山県の文化と自然を体系的に学んだ後、私たちは利賀芸術公園を訪れました。人々が日常を切り捨てて訪れる芸術の場は、大変貴重で贅沢な空間だと実感しました。



相倉合掌集落での集合写真。南砺市の此尾課長が五箇山の歴史と文化について解説してくださいました。



第1回世界演劇祭のために建設されたギリシャ式野外劇場。磯崎新氏の設計。